

受講番号 18095 学校名 西土佐中学校 氏名 山本 博一

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 Aコース 生徒数 13名
 科目名 2年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 SUNSHINE ENGLISH COURSE 2(開隆堂)

クラスの様子・特徴

習熟度別のコース制を実施しており、Aコースは基礎コースである。全体的に英語に対する苦手意識はある。男子は授業に対して意欲的であるが地道な取り組みが苦手、女子は学習に対して真面目な取り組みができるが、声を出す事に消極的である。

問題の確定

音読に抵抗感を感じている生徒がいる。音読の指導を工夫し、英文を読む事が楽しいと感じさせる活動の工夫が必要である。

予備調査

A 授業の観察

音読のペアワークは積極的に進んでいる。単語の発音については日本語のカタカナ読みをする生徒がかなりいる。音のつながりについては意識して練習している生徒が増えているが、家庭で読む練習が必要と思われる。(6月初旬の観察)

B 生徒による授業評価

ほぼ全員の生徒が英文を読む事に苦手意識を持っている。文字と音が繋がっていないために発音を間違える、音のつながりが意識できない、文の内容が十分理解できていないために区切りが意識できていない、などが主な原因である。(4月の自己評価)

C 学力データ

テスト結果(5月初旬実施・100点満点)・()内は人数
 40~49(1) 50~59(3) 60~69(4) 70~79(2)
 80~89(3)
 表現(A3 B3 C7) 理解(A5 B7 C1) 言語文化(A13 B0 C0)

リサーチ・クエスチョン

音読に対する苦手意識を取り除き、まとまった英文内容を表現しながら音読する力を伸ばすためにはどうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

毎時間、授業のはじめに簡単な英文での応答練習をすれば音読に慣れ、音読の力がついていくのではないかと。音のつながりやどの語を強く読むか、という事に対する意識を高める事ができるのではないだろうか。

実践1

・応答練習用のプリントを作成し、毎時間授業はじめの数分間で応答練習をペアで行った。
 ・プリントの内容は3パターンとし、それぞれのパターンについて簡単な応答のテストを行い評価した。
 ・プリントの英文の読み方(単語の発音やアクセント、イントネーション、強弱、音のつながりなど)については初期の段階で指導した。

検証1

・観察の結果
 全ペアがより英語らしく読もうとしていた。プリントを読むだけでなく、慣れてきたらできるだけプリントから目を離すように指導を入れると多くの生徒が努力した。
 ・テストの結果
 意欲付けが大きな目的であり、簡単なテストなのでほぼ全員が満点だった。

仮説2

英文を音読する際に目標とすべき観点を意識させ、自己評価させながら定期的に音読テストをすれば音読に慣れ、音読の力がついていくのではないかと。

実践2

・教科書の本文を利用して音読テストを実施した。ALTに協力してもらった。
 ・音読練習において意識すべきポイントを適宜生徒に与え、理解させながら音読練習をさせた。
 ・意識する目標 - 「単語の発音、アクセント」「イントネーション」「文の区切り」「音のつながり」「強勢」「内容理解」「内容表現」「上達への意識」「家庭での音読練習」

検証2

・最終回のテスト結果 - 13名中・()は向上した生徒数 A評価 - 5名(3) B評価 - 8名(7) C評価 - 0名
 ・特に向上のみられた項目(自己評価より) - 13名中 - 単語の発音(11)イントネーション(13)音のつながり(13)内容理解(12)上達への意識(13)
 ・英文内容を理解し、英語らしく読もうとする意識の高まりが感じられる。「内容表現」「家庭での音読練習」が課題である。

仮説3

毎日の宿題の単語練習や英文練習に対する意識を高めさせ、自己評価させながら、工夫させていけば音読の力の向上に繋がっていくのではないかと。特に単語や英文を発音しながら書いていく事を徹底させれば音読の力も伸びていくのではないかと。

実践3

・毎日の宿題に対して下記の4つの観点を意識して取り組むように指導した。
 ・「忘れず毎日提出できたか」「自分のために一生懸命宿題に取り組んだか」「1ページを有効に使えたか」「単語や英文を覚えるときは発音を意識しながら覚えようとしたか」、この4つの観点で自己評価させて宿題に対する意識の向上を図った。

検証3

・宿題についての自己評価の結果 - < >内の数字は、左が向上した(以前同様頑張った、も含む)生徒数、右が向上しなかった(以前と変わらない)生徒数
 毎日提出する<12,1> 自分のために一生懸命取り組む<12,1> 1ページを有効に使う<9,4> 発音の意識<7,6>
 ・一番意識させたかった項目の「発音の意識」について、期待していた結果が出ていない。

研究の成果

アクションリサーチに取り組み、どうすれば生徒により理解をさせ、力を付けさせる事ができるのか考える自分があった。音読に対する抵抗感を小さくできた事で、英語の苦手な生徒が顔をしかめながら教科書を読む場面が少なくなり授業の雰囲気の良い授業の雰囲気になった事が大きな成果だと思う。音読テストをするときは必ずお互いの良いところを発表し合ったが、生徒達が上手にお互いの良いところを指摘し合うのを見て、「勉強し合う事」「ほめ合う事」の大切さを改めて実感する事ができた。

今後の授業改善の課題

これまで通り音読に力を入れていきたいと思う。生徒の反省では、「家でもっと練習をもっとするべきだった」という内容が多かった。まずは全員がすらすらと音読できるように指導し、「教科書の英文を読むのが楽しい!」「今日は家で教科書を読む練習をしよう!」と生徒達が思うように持っていきたい。そのためには、「内容を理解し、その内容を表現しながら音読する事」をこれからの音読指導の目標としたい。